

# ガッコ親父の

次男の学は最近知った『アマビエ』のことを調べた。アマビエという生き物は江戸時代の後期に作られた瓦版に描かれていたそうである。そのアマビエは鳥のような人魚のような不思議な姿をしていた。その当時、海が光る現象を役人が調べに行ったら、何とアマビエなるものが現れ、何か予言をした後、もし疫病が流行ったら自分を描いた絵を人々に見せなさいと告げたということである。そうであるならば、新型コロナウイルスによるパンデミックが引き起こされている今こそ、その言い伝えの絵が威力を発揮する時なのかもしれない。学は5歳になる息子の「譲（ゆずる）」にアマビエの絵を見せてあげようと思った。学は見本を見ながら精一杯描いたものの、当時の瓦版の絵よりも格段幼稚な絵になった。譲は親が描いたその下手な絵に興味を示し、

「僕も描いていい？」というが早いか、鉛筆を手にしてサラサラッと描き上げた。学は五歳の息子が描いた絵を見てシヨックを受けた。松次郎の遺伝子を受け継いだ自分の絵と、絵が好きだった嫁の花菜（かな）の遺伝子をもらった息子の絵では、年齢差をもっともしない明らかな差があった。

「あらっ、上手な絵ね。もう一つの絵も悪くはないけど、やっぱりこれは経験の差ね。譲もこれから上手くなるから心配しなくてもいいと思うわよ」と賣代は孫を氣遣った。「母さん、上手って褒めたほうが譲が描いた絵」。あら、そうなの？。学は母親からの言葉にシヨックを受けた。間の悪いことに、そこに松次郎が現れた。「どうした？みんな集まって」と、テーブルの上に目を

やった。「おっ、『甘エビ』の絵か。だが、その絵はどう見ても甘エビには見えないなあ。鱗があるし、それに何でクチバシがあるんだ？」学と賣代はキョトンとした。「この絵は、例の海から現れる甘エビという妖怪じゃないのか？」「いえ、あなたこれは甘エビじゃなくてアマビエですよ。ア・マ・ビ・エ」と賣代はあきれてしまった。

甘エビだと間違っただけで記憶していた松次郎は柄にもなく顔を赤らめた。「絵っ、そうなの。なあんちゃって」と照れ隠ししながら学が描いた方の絵を指差して、なかなか良くできているじゃないかと褒めた。「親父、冗談はやめてくれよ」と、学はさらにシヨックを受けた。松次郎は学の方を本当に上手いと思っ

ているのがわかったからだ。そこには笑い話のようでも、自分の絵を本当に上手いと言ってくれる美術オナチの真っ直ぐな親父がいた。ちょっと待てよ。こんな親父だからこそ家族に明るさを与えてくれることができるのかもしれないな。だったら逆に感謝しなくてはと学は思いを変えた。「親父さ、今度、甘エビを買ってくるから『しまっちゅ伝蔵』でいっぱいやるうか。父の日ももうすぐだから」と学が言うと、「僕も甘エビ食べたいな」と譲が言った。学は一瞬だったが我が子に反抗心を持ったことを親として恥ずかしく思った。「わかったよ。譲のぶんのアマビエ、いや甘エビも買ってくるから」。私も甘エビ食べたいな」と賣代がウィンクをして笑った。



奄美黒糖焼酎

伝蔵

でん ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り  
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
0997(65)0251

25度  
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



# 「甘エビ」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。